



宮城県行政書士会の理想

宮城県行政書士会

会長 佐々木 政 勝

会員の先生方におかれましては、新年度が始まり、また新しい気持ちで業務に勤しまれていることとお慶び申し上げます。また、日頃から会務運営にご協力を頂いておりますこと、紙上をお借りし、厚く御礼申し上げます。

さて、私は、我が会の事業には「三つの柱」があるとお伝えしてきました。

- 1つには、研修事業
- 2つ目には、自らを律するもの
- 3つには、社会に働きかけるもの

実はこの三つの柱は「目的・手段」であって、「理想」ということではありません。昨年は、明治維新から150年。これ以降、富国強兵・殖産興業、戦後復興と謳われて来ましたが、これすらも国家のいわば「目的」であって、「理想」ではない感があります。

まもなく新天皇が御即位なされて、元号が改まります。この機会に、宮城県行政書士会の「理想」について、皆さんと一緒に考えてみようと思います。

個々の先生がたにおける理想は、「行政書士倫理綱領」にある行政書士としての使命を果たすことですが、本会の「理想」とは、社会貢献を目指しながら、行政書士制度の拡大を図ること、ではないでしょうか。これが起点となって、本会の事業活動が定まってきます。この理想を実現するには、どうしたら良いのか。そして、行政書士制度拡大の「理想」から演繹されてくるのが、三つの柱という「目的」です。

今年度の本会の活動は、本誌に示されている各部、委員会の報告に三つの柱が具現化されています。昨年8月のキックオフ大会において、各部、委員会がそれぞれの取り組み、事業計画を発表しあい、それぞれが活動、実施し、そして、本誌にその結果を報告しています。わが会が着実に、ものすごいスピードで進化を遂げていることに驚かれるでしょう。

各先生がたの、一生懸命取り組んでこられた様子が目に浮かびます。改めて感謝を申し上げたいと思います。

結びに一言。私たちは、政府が「未来投資戦略2018～Society5.0」を提唱しているように、AI（人工知能）、IoT（Internets of Things）などが発達する第4次産業革命の真っ只中に生きています。

行政書士制度拡大という「理想」も、三つの柱という「目的」も明確になりました。昨年12月から始めた「やかんミーティング」から見えてきたことがあります。それは、「目的」の次に、行政書士（会）に必要なことは「戦略」であるということです。ここでは、抽象的な表現に止めますが、わたしは、「戦略」の一端は、政策提言を出来るような組織に発展させる、その力を作る、ということが必要と考えております。これから、わが会の「理想」、「目的」、「戦略」がうまくかみ合って進むことが出来れば、Society5.0を生き抜いていけるのではないかと、思うのです。

これには、何よりも皆様のご支援がなければ、事は成りません。

今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。